博物館への資料提供20余年について

鈴　間　愛　作*

私は，初代館長堀先生，伊藤先生，東谷先生，小林先生と4代にわたり博物館の資料採集に協力して来ました。館長先生始め諸先生の御指導とご鞭撻を賜わり，幾多の貴重な勉強をさせていただき私の人生観を明るくし教養を高め，本当に博物館の資料採集に協力してよかったな……とつくづく思います。これからも命のあるかぎり，この仕事を微力ながら続けたいと念願しております。

始めて，オイランタチウオ（リュウグウノツカイ）を採集してから今日まで何が何んでもとがむしゃらに採集しましたが，珍種を集めた時の喜びは格別です。珍種の中でも50万年前に生息していた化石貝，オキナチシマガイが生貝で採集された時は本当に私も驚きました。又魚類では，マンダイ，スギ，シビレエイ，モンガラカワハギ，ホテイウオ，深海産では，クサウオ，サケガシラなど珍らしい魚類が日本海に産するので不思議なくらいです。

私が，メバル網をさした所，ウミウ，カイツブリがかかりこれを立派な標本にして頂き，100年ぐらいは持つとの事で驚いております。

大きな物では，マンボ魚，サメ，イルカ，アカマンボウ等がありました。大きな物程，館長先生始め諸先生の御苦労の程察するに余りあるものと深く感謝しております。

幸に私は，前に日本海，後に山野を負い村民漁師も博物館のために多大な協力をして頂き，温情と熱意に感謝の気持でいっぱいです。

何時だったか，故人になった友人が大切に保存している動物の頭骨をあげようと申され，飛び立つ思いで載きに上がったところ，それは海辺に上がった豚の頭骨でした。でも集めてくれる友の友情に胸のうたれる気持で一ぱいです。

まだまだ自然は広い，人間の行けぬ未知の世界が有るのです。この自然の宝庫を探しもとめるのは私達ではありませんか。私達で出来なければ子孫までその意志をつがせなければなりません。そのためには自然の観察が是非とも重要です。新種を少しでも採集し，よい標本を作り，これから世界にはばたく若者，小学生等のよき礎にならん事を願ってやみません。

付　記

鈴間さんと私との付き合いは，もう20数年にもなる。確か昭和29年の夏の刺し網漁期だったと記憶する。刺網にかかってきた様々な海の動物を手軽にしかも多種多様な採集ができるというい

＊　福井県丹生郡越前町厨

とも便利な資料の収集を計画し，越前町厨に出掛けた。この作業は早朝に行なわれるので，一夜旅館に泊って同僚と採集についての四方山話をしていると，宿のお手伝い様から，とても熱心な貝類採集家の鈴間様の話を聞かされた。翌日無遠慮にも同家（散髪屋さん）を訪れて，自慢の貝のコレクションを見せて頂いたり，魚の話をしたりで，鈴間様の物知りの程や，仲々のこり性ぶりや，人なっこさなどですっかりその人となりに惚れ込んでしまった。

ところで，初対面早々ではあったが，博物館の海の動物関係の資料収集に協力してもらいたい旨を申し出たら，即座にやりましょうと快諾して頂いた。それから以後，海の動物は勿論，珍しいと思われるものは何でも採集下さってそのつどご連絡下さるという，熱心さや親切さが20数年後の今日にも続いているのである。

鈴間様は散髪屋さんの仕事を奥様や娘様に任せて，漁船に乗り込むという転業？　が10数年前に始まったので，私たちには好都合この上ないという形になった。博物館では私が海の動物を主として扱っていることもあって，有難いこと限りないと常々感謝している。

鈴間様は貝の収集ではプロ級と思っている。昨年採集した貝の中で，新種が二種も発見されたという実績が物語る。これとて決して僥幸ではない。不断の努力と熱意の賜物だと思う。かつては天皇に福井県産の貝類を献上したこともある。

最後に，このほど，波部忠重先生から発表された鈴間様の採集にかかる新種２種を紹介して筆をおく。

Buccinum suzumai HABE & ITO　　スズマバイ　Fig 1

Buccinum terebriforme HABE & ITO　　タケノコバイ　Fig 3, 4

55. 5. 15　博物館長　小林貞七

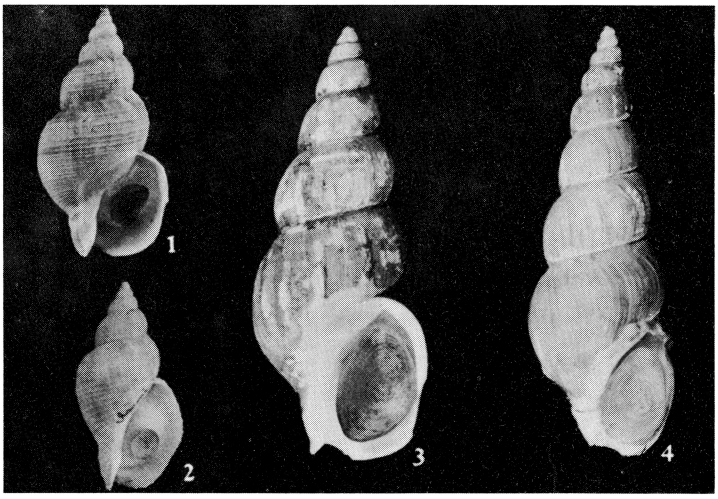

Fig. 1. *Buccinum suzumai* n.sp.（holotype specimen）スズマバイ（完模式標本）**2.** *Buccinum kawamurai* HABE & ITO（holotype specimen）ホソスジエゾバイ（完模式標本）**3.** *Buccinum terebriforme* n. sp.（holotype specimen）タケノコバイ（完模式標本）**4.** *Buccinum terebriforme* n. sp.（paratype specimen, subadult）タケノコバイ（副模式標本，亜成殻）

VENUS : Vol. 38, No. 4 (1980) より